

信州気候変動適応センター通信 No.9

信州気候変動適応推進について

1. 長野県気候変動適応計画の見直しについて

県では、気候変動の影響が顕在化する中、「長野県ゼロカーボン戦略」別冊「長野県における気候変動の影響と適応策」（長野県気候変動適応計画）について、令和7年度に見直しを行いました。

本県では、猛暑日の増加、自然災害の激甚化、降雪量の減少など、気候変動の影響が年々明らかとなっており、農林業、自然生態系、健康、観光など幅広い分野に影響が及んでいます。

今回の見直しでは、こうした現状を踏まえ、各分野における影響と適応策の記載を拡充するとともに、新たに二ホンジカの分布拡大など生態系に関する課題を追加しました。また、水稻・果樹の高温対策技術の普及や、熱中症対策、グリーンインフラの拡充など、具体的な適応策についても整理しています。

さらに、今後の気温上昇に備え、1.5℃程度の上昇に対応した適応策を着実に実施するとともに、2℃を超える上昇にも対応できるよう、段階的かつ柔軟に対策を強化していく方針としました。そのための県の取組として、分野ごとの情報の収集、分野横断的かつ効果的な施策の推進、全庁的な意識共有を図る場として関係機関との連絡会議を設置し、今後の気候変動の情報共有と適応策の強化などを随時協議していきます。

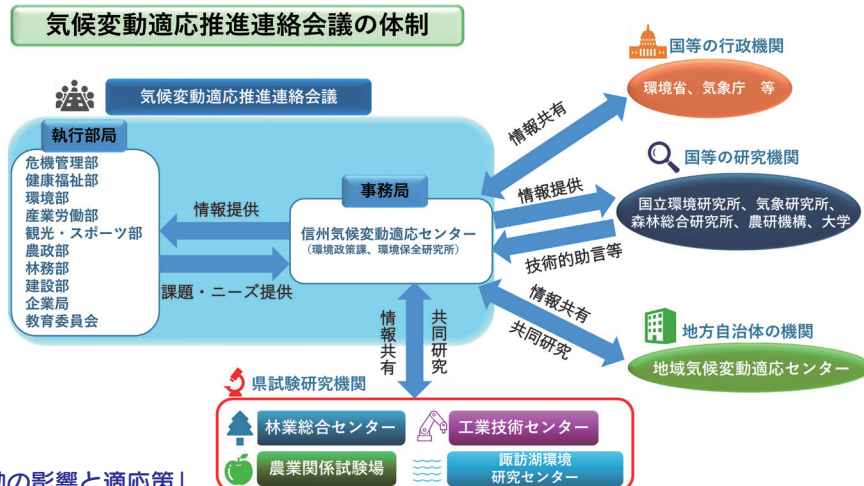
今後は、本計画に基づき、関係部局や関係機関との連携を強化しながら、気候変動に適応した持続可能な地域づくりを推進していきます。

ゼロカーボン戦略 別冊「長野県における気候変動の影響と適応策」の見直しの概要

見直しの概要		別冊の構成			
<ul style="list-style-type: none">適応策の推進に係る連絡会議の開催、気候変動に対する適応策の全体方針の記載新たな項目「ニホンジカ」の追加各分野の現在確認されている温暖化による影響、適応策の記載の拡充					
全体方針		<ul style="list-style-type: none">1.5℃程度の年平均気温上昇に対応可能な適応策を着実に実施し、2℃を超える年平均気温上昇にも適応できるよう、柔軟かつ段階的な強化を行い、効果的な適応策を推進気候変動に適応する取組の推進のため、関係機関との連絡会議において、気候変動の予測と対策の強化を協議するなど連携を強化			
現在確認されている温暖化の影響		温暖化により想定される影響及び適応策			
項目	影響※	項目	影響	適応策※	
農林業	農作物	農林業	農作物	<ul style="list-style-type: none">作物の品質低下病害虫の発生頻度の増加	<ul style="list-style-type: none">水稻、レタス、リンゴ及びブドウの対策技術や温暖化対応品種の普及を実施「風さやか」の品質向上対策技術の確立（水稻）高温条件下でも着色良好な新品種の開発（リンゴ）
			アカマツ・マツタケ	<ul style="list-style-type: none">松枯れ潜在リスク域の増加	<ul style="list-style-type: none">松くい虫の被害レベルマップの更新、被害拡大経過の検証と平行した防除体制の見直し
		自然生態系	ライチョウ・高山植物	<ul style="list-style-type: none">動植物の生息適地の移動又は消滅のリスク増加	<ul style="list-style-type: none">近年の生息数が把握できていない山岳の生息数調査
			ニホンジカ	<ul style="list-style-type: none">シカの分布拡大による高山・亜高山帯での植生変化や生物多様性消失のリスク増加	<ul style="list-style-type: none">高標高・積雪地でのシカの生息状況モニタリング分布拡大地域での目撃捕獲数の算出、捕獲の実施シカの採食が自然植生に与える影響調査の実施
健康	アカマツ・マツタケ	健康	熱中症	<ul style="list-style-type: none">県東部から南部にかけて熱中症のリスク増加	<ul style="list-style-type: none">熱中症リスクの高い労働者に対し、注意喚起、対策の周知を実施熱中症対策施設の設置・利用促進
	熱中症				
健康		国民生活・都市生活	生物季節・伝統行事	<ul style="list-style-type: none">サクラの開満日・カエデの紅葉日の変化御神渡りの出現回数の減少	<ul style="list-style-type: none">市民参加型調査等により生物季節等の追跡調査を継続
			ヒートアイランド現象	<ul style="list-style-type: none">温暖化に伴い、学校教室内における熱中症のリスク増加	<ul style="list-style-type: none">多面的機能をもつグリーンインフラの整備、導入事例の創出

出典：長野県ゼロカーボン推進本部会議資料（R8.3.27）

気候変動適応推進連絡会議の体制



出典：長野県ゼロカーボン戦略
別冊「長野県における気候変動の影響と適応策」

2. 気候変動適応推進連絡会議の開催について

県では、気候変動適応の取組を庁内横断的に推進するため、令和8年5月20日に「第1回気候変動適応推進連絡会議」を開催しました。



本会議には、庁内関係部局に加え、長野地方気象台や国立環境研究所の専門家が出席し、長野県における気候変動の現状と将来予測、国や他自治体の適応策の事例について情報共有が行われました。

また、農業、森林、陸域生態系、健康、観光業、ヒートアイランド現象など各部局から、適応に関する取組状況や課題について発表があり、分野横断的な視点での認識共有が図られました。

農業 ～農作物～

主な実施内容（予定含む）

- ・研究会等の中で温暖化対策技術等の普及を実施
- ・高温でも白未熟粒や割れ粒の発生が少ない早生品種を開発【水稲】
- ・県内で発生している全ての根腐病に耐病性を持つ、リーフレタス（赤系）品種「トリブルレッド」を開発【レタス】
- ・着色良好なりご品種「秋映」、「シナノホッパ」で、高温条件下における生育・品質への影響を評価【リンゴ】

主な課題

- ・令和5年からの記録的な高温環境下における白未熟粒や割れ粒の発生によるコメの品質低下【水稲】
- ・温暖化による高温期の生理障害の発生及び新たな病害虫の顕在化【レタス】
- ・既存品種における成熟期及び着色時期の変化【リンゴ】



左：白未熟粒、右：割れ粒 「トリブルレッド」 高温条件下で栽培した「シナノホッパ」

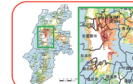
林業 ～アカマツ・マツタケ～

主な実施内容（予定含む）

- ・松くい虫の被害レベルマップの更新、被害拡大経過の検証を行いながら防除体制を見直し
- ・県採種圃において、剪定や断幹等の樹形誘導を適宜しながら、R3からR7までの5年間で合計8.7kg（苗木約46万本分）の種子を採取
- ・マツタケ菌を感染させたアカマツ苗（共生苗）の作製と林地への移植

主な課題

- ・被害レベルマップの更新を行う市町村にとって、更新のための被害状況調査等負担
- ・採種圃は開放型のため、マツノザイセンチュウへの抵抗性がないアカマツ（以下、「非抵抗性アカマツ」という）の花粉も受粉する可能性があることから、抵抗性がある苗木になる確率は理論上1/2となる
- ・林地移植後における共生苗のシロ拡大



陸域生態系 ～ライチョウ・高山植物～

主な実施内容（予定含む）

- ・関係機関と連携して、調査箇所・保護対策方法等を検討し、官民連携してライチョウ保護に取組む
 - ライチョウ保護技術者（ライチョウサポーターズエース）養成事業（R2～R4）
 - ライチョウや高山植物のモニタリング調査事業（R3）
 - ライチョウや高山植物のモニタリング調査事業（R2）・アプリ連携（R3）
 - ニホンツルシロツバキの生息状況調査
 - ライチョウの生息状況調査
 - 株式会社ヤマツの取組「ライチョウモニター」への参画（R8）
- ・近年の生息数が把握できていない山岳におけるライチョウの生息数調査の実施
 - 生息環境調査（乗客における捕食者の生息調査）
 - 北アルプス常念岳周辺の調査
 - 北アルプス白馬岳周辺の調査
 - 御嶽山周辺の調査
- ・ライチョウ保護の機運醸成や普及啓発、保護対策費用確保のため寄付金を募集

主な課題

- ・取り組みの周知、さらなる協力主体の枠組の増加
- ・高標高域での調査となるため、調査に時間とコストがかかる。
- ・寄付金募集の周知、広報活動への取組



ライチョウ保護対策高度技術者養成の研修 ライチョウの生息状況調査

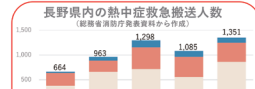
健康 ～熱中症～

主な実施内容（予定含む）

- ・熱中症の注意喚起、熱中症対策の啓発
 - 民間事業者等と連携
 - 熱中症リスクの高い業種に対して、林業従事者…空調服等の導入支援
 - 建設業者…県HPに熱中症対策事例掲載
 - 農業従事者…熱中症対策推進研修会開催
- ・熱中症対策施設（クーリングシェルター、クールシェアスポット、給水スポット）の設置促進、認知度向上のため、
 - 啓発用のぼり旗を作成し、市町村等へ配布
 - 「信州くらしのマップ」に一元的に掲載

主な課題

- ・熱中症救急搬送者数は増加傾向、熱中症リスクの高い方・業種に対し、熱中症対策の普及啓発をより強化・工夫する必要性
- ・クーリングシェルターを指定している県内市町村は半数程度。適切な場所がない等の理由で指定が進んでいない
- ・熱中症対策施設の県民の認知が進んでいない



観光業 ～スキー産業～

主な実施内容（予定含む）

- ・今後のスキー場振興に関する方針の策定（R6.3）
 - 県内スキー場の平均営業日数やグリーンシーズンの取組状況を把握
 - 特別指定スキーリゾート等に関する実態調査や整理
- ・スノーリゾート再構築支援アドバイザーの派遣（R6～）
- ・グリーンシーズンへの事業展開等を促進するための助成の実施
- ・観光コンテンツ整備促進事業の実施（R8～（予定））
 - 観光業の平準化等に向けた観光コンテンツ整備を補助

主な課題

- ・スキー人口減少やエネルギー価格の高騰、人手不足等による厳しい経営環境
- ・サステナブルな観光地づくりに向けた地域や事業者による理解・層の向上や取組への支援



ヒートアイランド現象

主な実施内容（予定含む）

- ・信州まちなかグリーンインフラ計画策定、エリアビジョン策定
- ・分野横断的に対策に取り組むため、関係部局を構成員とした推進会議の開催
- ・実証的研究として、芝舗装及び透水性舗装による暑熱緩和効果の観測を実施

主な課題

- ・『グリーンインフラ』の認知度が低い
- ・継続的な周知や広報手法の導入に課題
- ・社会実験の結果や導入効果について、周知・普及が不十分



気候変動は長期にわたり社会全体に影響を及ぼす課題であり、庁内各部局が連携しながら対応していくことが不可欠です。本会議はその第一歩として位置付けられるものであり、今後も継続的な情報共有と連携の強化を図りながら、効果的な適応策の推進につなげていきます。

（塩沢 能好人／環境政策課）